令和元年度　上峰町立上峰中学校　学校評価結果

資料２

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～自ら考え、適切に判断し行動する 中学校生活を通して～	①　基礎・基本的の確実な習得と活用力の伸長 ②　道徳教育の充実による豊かな心と社会性の育成 ③　基本的生活習慣の確立と健やかな体力の向上 ④　合理的配慮に基づく特別支援教育の充実 ⑤　教職員の業務改善や長時間労働の解消に向けた環境づくり

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①基礎・基本の確実な習得と活用力の伸長

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	1. 校内研究への取組による指導方法の改善 2. 意欲的かつ望ましい学習態度・学習規律の育成 3. 家庭学習・補充学習の充実 4. 読書活動の充実	1. 指導法の工夫・改善を図り、生徒がわかる喜びを実感できる授業を構築する。 2. 習得・活用・探究を図る学習活動や、思考・判断・表現力の育成をめざした学習活動の充実を図る。 3. 学習意欲を喚起し基礎・基本の徹底指導と学び方を習得させる。 4. 読書習慣を身につけさせ、読書に親しむ態度の育成を図る。	・TT授業等の研究。各種研修会への積極的な参加。学習状況調査等を活用した学習指導の展開。 ・学び合い活動に言語活動を組み込んだ指導法の研究。 ・学習規範の指導徹底。授業のねらいや流れを明確にした授業の確立。 ・年間を通じた朝読書の実施。 ・生徒会図書部との連携による図書館利用の充実。 ・「すくすくテスト」や「学習クラスマッチ」、佐賀大学と連携した長期休業中の補充学習等の推進。	A	・校内研究の柱である道徳は全時間TTで授業を行い，全職員が1回以上の後指授業に取り組んだ。 ・学習状況調査結果の分析や学期ごとの教科部会を通して，各教科の指導法改善に努めた。 ・生徒会活動と連携して，朝読書の徹底や学習クラスマッチの呼びかけ，実施に努めた。	・全国・県学習状況調査，NRT，Q-U検査等の調査結果を十分に分析して，日々の教育活動に積極的に生かしていく必要がある。 ・生徒の学校評価アンケート「家庭学習は毎日取り組む」では，7月は良好93.1に対し，12月は91.0と下がった。「子どもは家庭学習をする週間が身に付いている」と考える保護者は79.7であり，家庭学習内容のさらなる工夫が必要である。
学校運営	○小中連携	1. 小中の学力面・生徒指導面の連携 2. 中1ギャップや不登校の解消	1. 9年間で育てる視点に立ち、小中のつながりを大切に学力向上や生徒指導の充実を図る。 2. 小中の接続をスムーズにし、中1ギャップや不登校の解消に努める。	・計画的な小中連携活動（子どもの交流、教職員の交流、子どもと教職員の交流）の促進。 ・学力向上に向け、年間指導計画や教科の指導内容等を考慮した交流会の実施。	B	・夏休みの体験入学と11月の入学説明会、小学校運動会へのボランティア参加など連携を推進した。 ・小中合同研修会や連携協議会の設定を行った。また，家庭学習の充実を図るため，自学ノートの内容の連携を行うことができた。 ・相互の授業参観は行うことができたが、出前授業の実践ができなかった。	・働き方改革等を考慮すると，教員の連携には，時間的限界がある。児童・生徒の連携を模索するべきだと感じた。 ・校内研究で共通の柱を立てて連携しているが、職員の意識に差があるので、小中連携の利点を共通理解し、小中職員が9カ年で子どもを育てるという意識をもてるようにしたい。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	1. ICT機器を効果的に利活用した授業づくりの推進	1. タブレットの活用を図る。 2. ICT機器を利活用した授業の進め方について研究を深める。また、研修体制の強化を進める。 3. ICT機器を利活用する教材の開発及び環境整備を推進する。	・ICT利活用教育のリーダーを中心に、ICT機器を利活用した授業を各教科で研究・実践。 ・ICT利活用教育の研修会を実施する。 ・ICT機器を利活用した教材の開発を全教科で推進し、活用できる教材のストックの増加。	A	・全職員が電子黒板と電子教科書の操作に慣れ、ICTを利活用した授業を行っている。 ・パソコン室、タブレット型PCの利用、書画カメラ（ぼうけんくん）の活用についても、日常的に行われている。 ・ICT機器の使用は，日常化しているが，効果の検証を行っていないことが反省点である。	・年度当初に本校のICT機器の保有状況や活用方法を全職員で確認し、それぞれのもつノウハウを共有する機会をもつ。 ・ICT機器を授業の度の場面で活用することが，効果的なのかを教科部会で検証する。

②道徳教育の充実による豊かな心と社会性の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	1. 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	1. 夢や目標と学ぶことの意義を関連づけられる生徒の育成を図る。 2. 郷土について学ぶ体験活動を通して、郷土を大切にする心を育てる。	・すべての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や講演会等を実施する。	A	・学期末や学校行事等において反省を行わせることで将来について考えたり，振り返ったりする機会をもつことができた。 ・防災や交通安全に関する講演会を実施することができた。	・全国・県学習状況調査の意識調査の結果を十分に分析する必要がある。 ・キャリアパスポートを活用し，各学年での活動を記録して蓄積することで，学年間のつながりを意識して取り組ませていく。
教育活動	●心の教育	1. 豊かな心を育む道徳の授業の充実 2. 基本的生活習慣の定着 3. お互いを尊重しあえる人間関係づくりの推進 4. 生徒会活動の活性化	1. 道徳的価値に基づいた生き方の自覚を促す授業の充実を図り、正しい判断・実践力の育成をめざす。 2. 「あいさつ・無言清掃・時間を守る」を中心として、基本的な生活習慣の定着を図る。 3. コミュニケーション能力や人間関係構築能力を高め、社会適応能力を育成する。 4. 生徒の自主性と創意を生かした生徒会活動を展開する。	・道徳の授業の研鑽、教科指導・体験活動等、全教育領域において、心の教育の充実を図る。 ・日常におけるあいさつの励行、無言清掃と集会における無言入退場。 ・ノーチャイム運動の充実と学年の連携による遅刻をなくす指導の強化。 ・Q－U検査を活用した、ソーシャルスキル教育の計画的な展開。 ・複数担任制による生徒観察・指導の強化充実。 ・日々の教育相談活動や木曜アンケート等による生徒の実態把握、人権尊重を大切にした授業や行事の実践。 ・生徒一人一人が活躍できる学校行事や体験活動の充実。 ・高いリーダー性を持った生徒会役員の育成と1，2年生のリーダー育成。	A	・全時間TTで授業を行い、感想集の作成や，年間を通しての評価まで行うことができた。 ・木曜アンケートや日々の関わりにより，生徒間のトラブルや個人的な悩みを早期に把握し，解決に努められた。 ・あいさつ，無言での清掃・集会の入退場・儀式の号令省略など，自ら考え行動する校風を継続できている。	・Q-U検査，道徳性検査等の調査結果を十分に分析して，日々の教育活動に積極的に生かしていく。 ・全教育領域における道徳教育という意識付けを十分にはかる。 ・道徳教育の実践の場として，学校行事や体験活動を充実させる。
教育活動	●いじめ問題への対応	1. 人権・同和教育の推進を含めたいじめ防止のための教育実践 2. いじめの早期発見・早期対応に向けた取組	1. 道徳、特別活動をはじめとした教育活動において、いじめ防止のための心の教育につとめる。 2. 人権を尊重し、正しい差別のない明るく豊かな社会を築く人間の育成をめざす。 3. いじめの早期発見を徹底するため、生徒理解・指導と教育相談体制のさらなる充実を図る。 4. いじめの早期対応を徹底するための、対応力・指導力と教育相談体制のさらなる充実を図る。	・道徳や特別活動において計画的に「いじめ防止」に関する題材・活動を取り入れる。 ・「木曜アンケート」の実施方法や結果の活用方法について絶えず検討・修正を加える。 ・教育相談部を中心に各学年で協力するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にする。 ・インターネット上のいじめに対応するために情報モラルの教育を計画的に行い、いじめ防止に努める。	A	・道徳の教材を活用して、円滑な人間関係について学ぶことができた。 ・アンケートを毎週行い、問題の未然防止に取り組むことができた。 ・人間関係に悩みを持つ生徒に対して、SCを有効に活用することができた。 ・SNSの利用について道徳や学活で指導することで、問題の未然防止に努めることができた。	・いじめゼロを目指して、継続して指導をする必要がある。 ・アンケートに毎週取り組むことで、今後も問題の未然防止、拡大防止に努める必要がある。 ・いじめ被害や加害の生徒に対してSCの活用が有効で有り、今後も連携していきたい。 ・SNSの利用について、専門家からの指導が必要であると考えられる。

③基本的生活習慣の確立と健やかな体力の向上

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	1．部活動指導による人間形成 2．健康管理意識の向上 3．安全教育の徹底と危機回避能力の育成	1．心と体を育てる部活動の経営に努める。 2．自らの健康を考えながら毎日の生活を送る態度と実践力を育てる。 3．学校内外において安全な生活を送ることができるよう危機回避能力を育てるとともに、生徒が安全に過ごすことができる環境作りに努める。	・全員部活動の実施、及び、活動を通じた技術や体力の向上、忍耐力･自主性・社会性・協調性・公平さ等の育成。 ・定期健康診断の実施と事後措置及び健康保持増進に向けた指導、健康に対する情報の伝達。 ・食生活を含む望ましい生活習慣の確立。 ・交通教室や防犯教室、避難訓練の実施、各施設の点検及び補修。 ・学校内外の危険箇所マップの活用、緊急メールによる情報の速やかな発信。 ・立ち番指導による生徒の登下校時の安全確保。	A	・計画的な健康診断の実施、及び結果通知を行うことができた。また、健康診断の結果を保健指導に生かすことができた。	受診率を上げるため、指導内容・方法や保護者へのお知らせを工夫する必要がある。

④合理的配慮に基づく特別支援教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○特別支援教育	1．特別支援教育体制強化 2．個別の支援の充実と専門機関等との連携強化	1．特列支援教育について理解を深め、全職員による指導体制の強化を図る。 2．特別支援学級の生徒だけでなく、普通学級に在籍する特に支援を要する生徒の指導の充実を図る。 3．特に支援を要する生徒や不登校生への専門機関との連携による指導支援の強化を図る。	・特別支援教育についての研修会への参加と校内研修の充実。 ・個別の支援計画の作成及び効果的な活用、指導法の改善と全職員による協力体制の確立。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員の有効な活用。	A	・学期ごとの保護者面談を個別の支援計画に生かし継続した支援ができている。 ・コーディネーターと支援員のミーティングを毎朝持つことで個に会った支援ができている。 ・全職員による指導体制の強化を図る。	・研修会により全職員の意識向上を図る。

⑤教職員の業務改善や長時間労働の解消に向けた環境づくり

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	1．学年・学級経営の充実 2．業務改善マニュアル作成と徹底 3．衛生管理の改善充実 4．部活動の在り方、運営方法の改革	1．学年の協働意識を高め、職務の効率化と生徒への指導の充実を図る。 2．「仕事にやりがいを感じている。」と答える職員を90%以上にする。 3．多忙感解消で、時間外勤務時間を前年同月より10%以上減らす。 4．国や県、また、町ののガイドラインに合わせた部活動運営計画を作成し、限られた時間の中で、集中して自発的に取り組む部	・学年会で、情報交換や協議を行い、共通理解に基づき複数担任制を生かした協働を推進する。 ・各種業務項目のマニュアル化で共通理解を進め、業務の無駄をなくす。 ・タイムマネージメントを行うと共に、定時退勤日の確実な実施を行う。 4．各部活動ごとに毎月練習計画を作成し、上峰中学校のガイドラインに沿った運営をめざす。	A	業務時間を減らすには、一人一人の意識の改革が必要だと感じる。仕事の効率を上げるために、個人として何ができるか、組織として何ができるかを全員が考え、実施していく必要がある。 　本年度は、職員全体として、年間超過勤務時間平均が60時間を切ることができたが、個人によって差があるところは検討の必要がある。	業務時間を減らす必要性を各人が認識し、個人として何ができるか、組織として何ができるかを具体的に示し、年間を通しての超過勤務時間平均55時間を上回らないように意識し、チーム上峰として、出し合ったアイデアを、積極的に共有して、取り組んでいきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	1．学校公開と情報の発信 2．地域と連携した学習の推進	1．学校の情報を発信し学校の説明責任を果たすとともに家庭や地域の声を学校経営に反映させ、地域と一体となった教育をめざす。 2．キャリアデザインにつながる体験活動や地域の伝統芸能に触れる活動などを通して、地域と連携した教育活動を充実させる。	・学校だより・上中らいふ（学校行事紹介写真）の地域回覧、ホームページ更新、授業参観・オープンスクールやPTA活動活性化のための企画力向上。 ・学校評価の効果的な活用、保護者との日常的な情報交換の機会拡充。 ・地域や保護者の協力による職場体験の実施や地域の伝統芸能を取り入れた総合的な学習の実施。	A	・学校による情報発信に関わって、94．1%の保護者が「子どもの様子を伝えたり家庭との連携を図ったり、努力をしている」と感じている。 ・約96.7%の保護者が「学校は地域と連携して教育活動を行っている」と認識している。	・学校からのたよりを保護者にきちんと渡している生徒が約84.9%と昨年度より若干減少した。まち込みメールの活用等今一度見直す。 ・オープンスクールへの参加者が伸び悩んでいるので、PTAと連携してより効果的な公開について工夫したい。

4　本年度のまとめ ・ 次年度の取組

・本校の教育活動について、保護者、地域の方々、学校評議員から、肯定的な意見が多く寄せられた。本校の教育活動について、昨年に引き続き、クオリティが年々上がってきていると概ね良い評価をいただいている。校内研究では、道徳教育の改善･充実を軸にした、教科としての道徳の授業づく等、現在取り組んでいることが一定の成果を上げている。しかし、これに安心することなく、確かな学力を目指した学び合いを取り入れた指導方法の工夫改善を重ね、豊かな心と望ましい人間関係づくりのために、熱意と使命感を持って教育活動に取り組みたい。
B評価となった、「小中連携」の項目については、①教師の連携、②児童生徒の連携、③行事での連携、④教科での連携を柱にして、インクルーシブ教育を考慮した取り組みを含め9カ年で子どもを育てる意識を高め、小学校とともに力を注いでいきたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目